

MARUYU
MASTERING
LESSON
TEXT

VOL.2

作曲編曲の実践編。

まずはテーマを決めよう。

- ・それは誰に向けた曲なのか。
- ・それはどういう時に聴く曲なのか。

具体的に言うと……

- ・ 10代思春期女子に向けた冬のラブソング
- ・ 仕事に疲れた大人たちに向けたエールソング
- ・ 夜の都会をイメージしたジャジーな楽曲
- ・ 夏の夕暮れ、海岸で焚き火を囲んで……という情景が浮かぶ楽曲

～みたいなこと。これは実際のコンペ要項にもよくある。（アーティスト名を名指しで似た曲が欲しいと言われたり、〇〇

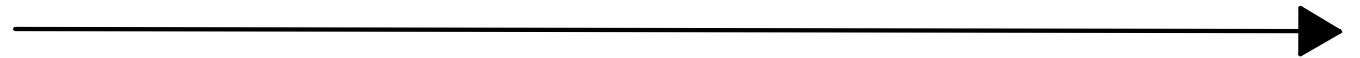
という歌詞を必ず入れて欲しいという特殊な指定があることもある）

コンペはオファーと違って、大抵は会社名とかタイアップタイトルが伏せられて行われる。

お題がふわっとしてるのは、曲を欲しがっている人（クライアント）が音楽に精通していないから。

我々なら「Jazz」とか「Funk」とかで話が通じるけど、普通の人にはそれはわからない。なので、彼らは「イメージ」だけでこういう要求を出すしかないのだ。

もちろん、アーティストの独創性を期待している場合もある。



例えば、「10代思春期女子に向けた冬のラブソング」をお題とする——。

ここから感じ取れる要素を列挙、音楽的な要素に昇華していく。

- 思春期→嫌なことも多い多感な時期。勉強も部活も恋愛も頑張りたい！（歌詞に反映？「辛い きつい だるい 苦しい」）
- 気になる人がいるものの勇気が出ない、障害物が多い、エトセトラ。（どういう感情？「逆に燃える」？「私を見て」）
- 冬→クリスマス、バレンタイン、正月とイベントは多い。（正月ソングは珍しいので一発狙える……けど、響きにくい。）
- クリスマスなら大胆に誘える？ バレンタインのチョコイベで急接近？（バレンタインの方が女子っぽい。Xmasは女っぽい）
- チョコレート……甘い……甘い繋がりで「からい（辛い）」という歌詞が使えるそう？ 辛は「幸」にもかかっている。チョコレートは湯煎する、加熱、「燃える」も歌詞に使えるそう。バレンタインをテーマにしてみるか？
- バレンタインといえば、「バレンタイン・キッス」「チョコレート・ディスコ」「マジェスティック」「February Magic」。
- このうち3つは【Drumが打ち込み（808?）】、【BassはSynth Bass】、【Melodyの返しにFuture系のSynth?】を使用した【ハウス・シンセミュージック】っぽい音楽。定番なので一つくらいは踏襲してもいいか？ 逆にどれもかすらないようにして、新しさを演出する？ その辺りのバランス。

すると……こういった材料が必要なのか見えてくる。今回は「シンセミュージック」を参考にすると一般ウケしやすいことがわかった。もちろん、感覚は人それぞれなのでこれは絶対ではない。ただし、仕事として受ける場合は、やはり「一般論」というものがあるので、共通項みたいなものは勉強する必要がある。過去の名曲は「人々の一般論」として刻まれていることが多いので一度は聞いておくべき。（すぐに浮かぶなら聞かなくてOK。引っ張られるので）

ジャンルの一例

細分化しすぎるとあまりに多くて書ききれない（自称してるケースもある）ので、感覚的に区分できたものを列挙。

Rock

US Rock ,UK Rock,Metal ,Hard Rock(Core ,Punk) ,Alternative Rock ,Grunge Rock ,Post Rock ,Psychedelic Rock ,Shoegaser ,
Surf Rock,

Jazz

Standard Jazz,Dixieland Jazz,Big band Jazz,Be-bop,Ragtime
Club Jazz,Acid Jazz,Smooth Jazz

Black Music

Funk,Soul,Disco,Blues(→Rock,Jazz)
Country,RnR
RnB,Gospel,Jazz Funk(→Acid Jazz)

Latin

Samba,Bossa Nova,Calypso,Songo,Afro Cuban,Soca
Reggae,Ska,Beat(Montuno,Rumba,Salsa,Manbo,ChaChaCha,Mozambique,etc...)

Classic

Symphony,Brass&Winds,Opera,Waltz,Dancehall Music,
教会音楽、宗教歌、讃美歌、劇曲、舞曲

World

北欧系（Irish/Swedish）,Arabian,Russian,French,Asian(silkload music),African
民謡、雅楽

Digital

House,Trance,Trap,Synthsizer Music,HipHop,Eurobeat
EDM

Others

Crossover,Fusion,Easy-listening,Pops
前衛音楽、実験音楽、渋谷系、アニソン、ボカロ、サウンドトラック（劇伴）、ゲームミュージック



「Rock」を実際に作ってみよう。

ABC展開、起承転結を意識。難しければ最初はサビだけでもOK。

まずはテーマ（どういう曲なのか）を考える。

- ・コードから考える。
- ・リズムから考える。
- ・展開から考える。

作り出しは人それぞれ。

難易度が高ければ曲の構成も複雑になりやすい。

次に、Rockというジャンルについて掘り下げる。

- ・どういう楽器がいればRockっぽいのか。
- ・どういう演奏方法ならRockっぽいのか。

分析してみる。

- ・ 花ハ踊レヤいろはにほ→美しいピアノロックの名曲。
- ・ marshmallow justice→熱のあるロックの名曲。
- ・ 夜咄ディセイブ→強リフが牽引するダーティなロック。
- ・

真似してみる。

実践してみる。

楽器構成→E.Gt/E.Ba/Drum +others...

※Othersの部分で差別化しやすい。

・EGt

音色→Aメロ Clean（or DriveでPMとか）で、サビでDrive踏むイメージ。

奏法→パワーコード、パームミュート、ストローク、アルペジオなど簡素。

Interにソロがあっても良い。

・EBa

音色→重心低めの太い音。JBだと現代っぽく、PBだとオールドっぽい。

奏法→ベタ打ち（8分）が多い。ピックでも指でも。

・Drum

音色→スティックの標準的な音。

奏法→8th note feel（8beat）が多い。AではHH、サビでOpen（or Ride）とか緩急をつける。

この辺りの要素があるとRockっぽいと感じる人が多いと思う。

ちなみに、分析曲に定番を入れないのは、定番は「すでに知っている」可能性があるから。

すでに知っている、すでに持っている感覚を上書きするのはレッスンポリシーに反する。

できるだけ知らない楽曲を聞いて、すでに知っている感覚から「要素」を嗅ぎ取って欲しい。

その感覚は味覚と同じでその人だけのもの。好みがある。

そのフィルターこそが、その人の持っている「個性」となる可能性を秘めている。

あなたはあなたの感覚で、「要素」を定義していいのだ。

ただ、その上で、「カレーはカレー」だという一般論を知る必要はある。

「Jazz」を実際に作ってみよう。

ABC展開、起承転結を意識。難しければ最初はサビだけでもOK。

まずはテーマ（どういう曲なのか）を考える。

次に、Jazzというジャンルについて掘り下げる。

- 一口にJazzと言っても色々ある。（Standard？ Smooth？ Bigband？ Dixieland？ Contemporary？）
- Jazzといえばアドリブ？ おしゃれなコード？
- どの部分でJazzの要素を表現するか。それとも完全なJazzにするか（高難度）。

分析してみる。

- おねだり Shall We～？ → 展開が目まぐるしい Smooth Jazz。
- ESCORT → Jazzの要素を上手く昇華したシャンソン。
- tank! → ビッグバンド編成の定番。
- SHIFT → ただのJazzで終わらないアレンジの魅力。
- 女の子は誰でも → 4beatを強く意識させられる。
- おもいでクリエイターズ → 古来のジャズを彷彿とさせる。
Symphonic Jazz、Cartoon Jazzの要素を含む。

楽器構成 → Pf/W.Ba/Drum + others...

※ Pf、WBa、Drumの組み合わせが『Trio』というJazzの基本構成になる。そこに + EGt や + Sax など feature していくイメージ。

• Pf

音色 → シンプルだがコンサートよりは控えめ。バーでの演奏という仮定で Upright もいい。

奏法 → 俗にテンション。アドリブフレーズ。

• WBa

音色 → ナチュラルな音。

奏法 → Walking Bassが多い。アドリブがある場合もある。基本は指。

• Drum

音色 → 色々あるが、ブラシが多い。ロッドやスティックもある。

奏法 → 4th note feel Swing（4beat）が多い。

この辺りの要素があるとJazzっぽいと感じる人が多いと思う。

「Funk」を実際に作ってみよう。

ABC展開、起承転結を意識。難しければ最初はサビだけでもOK。

まずはテーマ（どういう曲なのか）を考える。

次に、Funkというジャンルについて掘り下げる。

- Funk、Soul、Discoは切っても切り離せない。
- アフロが踊ってるイメージ。ミラーボール。（Disco）
- スパンコールの女性がシャウトしてるイメージ。（Soul）
- テクニカルなリフ、フレーズを繰り返す。
- 横ノリ。

分析してみる。

- M@STERPIECE→ソウルの要素全乗せのアイドルソング。
- Dance in the Fragrance→Funk/Disco/SoulをMixしたような曲。
- 狩りから稲作へ→ピアノを基調とした王道のファンク。
- 全力アイドル宣言→Discoを押し出したアイドルソング。
- One Night Carnival→Discoを基調としたファンクロック。
- オオカミとピアノ→ファンク～ソウルと美しく変遷する。
- ジャーバージャー→ファンクを強調したアイドルソング。

楽器構成→E.Gt/E.Ba/Drum +others...

others:Conga,Brass,Winds,Synth,Strings,etc...

• EGt

音色→Clean～軽いDriveくらい。

奏法→カッティングが多い。Muteを多用した16th note feel。

• EBa

音色→重心低めの太い音。JBだと現代っぽく、PBだとオールドっぽい。

奏法→うねるベースライン（Funk/Soul）、8va奏法（Disco/Soul）、スラップ

奏法がよく出てくる。Mute多用。

• Drum

音色→スティックの標準的な音。スネアに凝る。

奏法→FOTF（特にDisco）、16th Note Feelが多い。

+ Conga/Synth/Brass→Funkっぽい

+ Conga/Brass/Strings→Soulっぽい

SoulやDiscoは大元がBigbandではあるので、構成が似ている。

「RnB」を実際に作ってみよう。

ABC展開、起承転結を意識。難しければ最初はサビだけでもOK。

まずはテーマ（どういう曲なのか）を考える。

次に、RnBというジャンルについて掘り下げる。

- ここでは広義的なR&Bではなくて、一つのジャンルとしてのR&Bを掘り下げる。
- 808などのリズムマシンやサンプラーが流行った時代の黒人音楽。MaryJBやErichaBaduなどが有名。HIPHOPに与えた影響大。
- 構造自体はFunkなどと同じでシンプルなもの繰り返し。楽器や雰囲気が違う。
- 横ノリ。クラブっぽい。

分析してみる。

- サマー☆マジック→US RnBから多大な影響を受けたアイカツの曲。アイカツは全体的にRnB色、ブラックミュージック感が強い。
- つつみこむように…→J RnBの名盤。歌唱法なども重要。女性Vo
- 夢で会えたら→J RnBの金字塔。男性Vo。
- LA LA LA Lovesong
- 接吻

楽器構成→Synth/Ba/Drum(Sampler)/Key +others...

- Synth/Key/etc

音色→バックイング（コード感）として存在するイメージで、難しい演奏はない。

奏法→Rockでいうギターくらい単純なイメージ。4分音符の跳ねたやつの繰り返しとか、シンプル。

- Ba

音色→Synth/EB/WBなんでも使われる。ワンフレーズを繰り返す系が多い。

奏法→決まりはないが、シンプルなものが多い。全音～4分音符くらい音価が長いイメージ。そしてかなりGroovy。16th note やShuffleが多い。

- Drum

音色→生ドラムの場合もあれば、ドラムマシンの場合もある。

奏法→一定のリズムを繰り返すイメージで小技（フィル）はあまり入らない。

この辺りの要素があるとRnBっぽいと感じる人が多いと思う。

「Ballade」を実際に作ってみよう。

ABC展開、起承転結を意識。難しければ最初はサビだけでもOK。

まずはテーマ（どういう曲なのか）を考える。

次に、balladeというジャンルについて掘り下げる。

- しっとりと歌詞を聞かせるイメージ。ボーカルの意識。
- 日本語で言う「抒情曲」。
- ピアノやストリングスでメロディを牽引する。
- テンポはどちらかというとゆっくりめでシンプルな構造。→ボーカルを聞かせるための工夫。
- 世界観を活かしやすい。起承転結がはっきりしている。
- 厳密にはカテゴリで、ジャンルではないかも。

分析してみる。

- ユメセカイ→シンプルな構成の哀愁歌。いわゆる「泣き」のフレーズはギタリストっぽい。
- Snow Halation→ピアノを基調としたバラードロックの名盤。
- 雫の結晶→ピアノを基調としたシンフォニックバラード。
- minamo→FunkやOld RnBを基盤にもつバラード。グルーヴィ。

楽器構成→Pf/Strings/E.Gt/E.Ba/Drum +others...

- EGt

音色→Clean～軽いDriveくらい。

奏法→アルペジオなど。

- EBa

音色→重心低めの音。JBだと現代っぽく、PBだとオールドっぽい。

奏法→テクニカルなこともあるが、基本はシンプル。

- Drum

音色→スティックの標準的な音。スネアに凝る。

奏法→音量的展開のある叩き分け。

- Piano

音価は長めであることが多いほか、クラシック的な奏法も使われる。大サビ前の展開として、ボーカルとのデュエットになるパターンも多い。

「Samba/BossaNova」を実際に作 ってみよう。

ジャンルについて掘り下げる。

- ・ ラテンの独特なリズムの組み合わせ。特有の楽器構成。
- ・ 場面を想像しやすい。（サンバは暑いイメージ、ボサノバはカフェのイメージなど）
- ・ 現代の日本の音楽には欠かせないスパイス的なジャンル。楽曲の一部だけに使われたり、気づかないように入っていたりする。

分析してみる。

- ・ 人類みなセンパイ！→一部にサンバやSongoのビートを使用。この手の「一瞬だけラテン」というテクニックを広めたのは田中秀和。
- ・ もうそうエクスプレス→ボサノバ+シンフォニックロックという異色の組み合わせを見事に昇華させた創作料理の完成形的な名曲。
- ・ なるまるまーる→全面的にラテンのリズム。
- ・ チョコレートスマイル→一瞬だけ入るボサノバフレーズがとても良いエッセンスに。ラテンとJカルチャーの親和性の高さを物語る。
- ・ 人生イージー？→こちらもBメロにラテンフレーズが登場。
- ・

楽器構成→Pf/C.Gt/Ba/Drum +others...

others:Conga,Brass,Winds,Synth,Strings,etc...

- ・ Pf

ラテン特有の奏法。モントゥーノなど。

- ・ CGt

ラテン特有の奏法。

- ・ Ba

ラテン特有の奏法。

- ・ Drum

ラテン特有の奏法。サンバキック。

- ・ Perc

ラテン特有の構成と奏法。2-3や3-2。

ラテンは特有の要素が多いため、実は再現が簡単。

必要な材料も調理法もほとんど決まっているため、それさえわかれば割と付け焼き刃でも雰囲気が出せる。

「Reggae/SKA」を実際に作ってみよう。

ジャンルについて掘り下げる。

- ・ 裏拍の強調。3拍目のKick。
- ・ 特徴的な音作り（Bassを強く、Highを潰すイメージ）。
- ・ Reggae→テンポが遅い、Ska→テンポが速い
- ・ Skaは楽器数が多い。BigBand。
- ・ Reggaeはジャマイカ発祥で、奴隷の音楽が元。ブルージーなフレーズ。感情的。

分析してみる。

- ・ 葛飾ラブソディ ヤムヤムver.→オリジナルとの対比が面白いSkaアレンジのアニソン。
- ・ タカラモノズ→Skaの特徴をよく捉えた楽曲。ウェットな音作りにもこだわりが感じられる。
- ・ Wor War Tonight→実はシンセサウンドを上手に取り入れたJReggaeの名盤。これが流行したためにJReggaeというジャンルが始まった。JReggaeはReggaeの要素をあまり含まない。
- ・ オトナモード→気怠げな夜の雰囲気や思春期特有のいじらしさをReggaeのブルーな雰囲気で表現した名盤。

楽器構成→E.Gt/E.Ba/Drum/Pf +others...

others:Conga,Brass,Winds,Synth,Strings,etc...

- ・ EGt

音色→Clean～軽いDriveくらい。

奏法→裏拍を強調するカッティングフレーズ。スキャンクという。

- ・ EBa

音色→Toneを使ったようなこもった音。

奏法→1拍と3拍に強調。主張は弱め、音符の数も少ないがグルーヴは失わずに。

- ・ Drum

音色→スティックの標準的な音。クローズドリムの場合もある。

奏法→3拍目にKickとSnareが同時に来るようなフレーズ。Skaなら1拍も強いイメージ。

- ・ Pf

エレキギターと同じリズムで裏拍を強調。

- ・ Brass

Skaの場合はPfとGtとともにブラスが裏拍を強調。

「Gospel」を実際に作ってみよう。

ジャンルについて掘り下げる。

- 全体的に劇的で、メロディラインが合唱となる場合も。4和音以上の複雑なハモリがある場合もある。
- 前向きで明るい曲が多い。「ゴスペル＝福音」名前の通り、「ジーザス」や「ハレルヤ」などキリストについての歌詞。
- RnBの要素を多く含む。楽器の縛りもあまりなく、参加型の音楽という感じ。基本は横ノリ。
- ミュージカルと相性抜群。誰かのリズムに合わせてたり、体感的に音を重ねていくイメージ。手拍子でも足音でも、声でも口笛でも、楽器でも。音さえ出れば。懐は広い。

分析してみる。

- SHINY DAYS→Oldアメリカの泥臭さを持ったゴスペルの名盤。この曲の台頭で、日本のGospelの印象が決定づけられた。
- ときどきアイデアをよろしく！→上の曲の流れを受けて制作されている。キャンプ→アウトドア→DIYというイメージ。
- ワンダーファニーハーモニー→Gospelのレシピに忠実に作られた上で、Houseの要素を混ぜられたゲームソング。
-

楽器構成→Pf/E.Gt/E.Ba/Drum +others...

others:Conga,Brass,Winds,Synth,Strings,etc...

- EGt

音色→Clean～軽いDriveくらい。

奏法→カッティングが多い。Muteを多用した16th note feel。Soul的なフレーズが多く、複雑で難しいものも少なくない。

- EBa

音色→重心低めの太い音。こちらもDiscoやSoulっぽい。

奏法→うねるベースライン（Funk/Soul）、8va奏法（Disco/Soul）、スラップ奏法がよく出てくる。Mute多用。DiscoやSoulっぽい。

- Drum

音色→スティックの標準的な音。スネアに凝る。

奏法→Swing、Shuffle、16th Note Feelが多い。Smooth Jazzなどの要素。難易度はかなり高めのフレーズ。

- Chorus→Gospelっぽさの大きな要素。Duwapなども。

- Brass→Vocalに負けず劣らないハモリとカウンターメロディ。

- Strings→

- Organ→教会にあるもので音が出るものといえば。

「 」を実際に作ってみよう。

ジャンルについて掘り下げる。

・

分析してみる。

・

楽器構成→Pf/Gt/Ba/Drum +others...

others:Conga,Brass,Winds,Synth,Strings,etc...

・ Pf

・ Gt(Acoustic/Electric)

・ Ba(Electric/WBa)

・ Drum

・ Percussion (Conga/Tomb...)

「 」を実際に作ってみよう。

ジャンルについて掘り下げる。

・

分析してみる。

・

楽器構成→Pf/Gt/Ba/Drum +others...

others:Conga,Brass,Winds,Synth,Strings,etc...

・ Pf

・ Gt(Acoustic/Electric)

・ Ba(Electric/WBa)

・ Drum

・ Percussion (Conga/Tomb...)

「 」を実際に作ってみよう。

ジャンルについて掘り下げる。

・

分析してみる。

・

楽器構成→Pf/Gt/Ba/Drum +others...

others:Conga,Brass,Winds,Synth,Strings,etc...

・ Pf

・ Gt(Acoustic/Electric)

・ Ba(Electric/WBa)

・ Drum

・ Percussion (Conga/Tomb...)

おわりに　～さらなるジャンルの掘り下げと～

もしかすると、ここまであなたのやりたいジャンルが登場しなかったかもしれません。

もちろん、ここまでに挙げたジャンル以外にも音楽はたくさんあり、ジャンルを特定するのが難しいものも多いです。

特に昨今のPopsにおいては2～3……いや10種類以上のさまざまなジャンルが複雑に入り混じっています。

カレーはカレーでも、スパイスがたくさん入っているんですね。

しかし、それはおそらく、必ず「要素」の集合なのです。

ここまで学んできたジャンルの知識を持てれば、「この曲は、Rock 30%、Soul 40%、Symphonic 30%」といったように聞き分けることができるはず。

これができるようになって初めて、あなたはその「スパイス」を使える（認識できる）ようになったと言えるでしょう。

ここで話を少し戻して……

夏の夕暮れ、海岸で焚き火を囲んで……という情景が浮かぶ楽曲

こんなテーマがあったとします。

夏、暑い、夕暮れ、太陽→ _____ %, _____ % 海岸→ _____ % , _____ % 焚き火→ _____ %, _____ %

どんなイメージを持ちましたか？

音楽的に表現するなら、こういった要素「スパイス」を混ぜれば浮かんだ情景に近づけるでしょうか？

どうですか。初めの頃、ラーメンと言われてパスタを茹でようとしていたあなたはもういないはず。

さあ。あなたの頭の中にあるもの、それをアウトプットするための準備は整いました。

あとは数をこなすだけです。誰しも数回のトライアンドエラーでプロにはなりません。

100回、200回、1000回。何度でも試しましょう。

今日から、あなたの思考を阻むものはありません。あなたの寿命以外には。

